

2012年11月26日

毎日新聞

内野雅一

## 「集中」は十分か！？

日本のコンテナ埠頭は1970～80年代前半の供給不足状況から整備が進められ、現在、外貿コンテナ港は60港とされる。

その後、政策転換が図られ、「スーパー中樞港湾」（2004年指定）、そして「国際コンテナ戦略港湾」（2010年選定）と「選択と集中」が進められてきた。

そこで、素朴な疑問をいくつか挙げたい。

- ①「戦略港湾」の進捗状況はどうか。
- ②外貿コンテナ港は海外と比べて突出しているが、多くないか。
- ③地方港整備が同時に進められているが、それらの経営は成り立っていくか。
- ④製造業中心に加速する企業海外移転への対応、首都圏中心という大消費地の輸入 対応などのバランスをどう考えているか。
- ⑤海と陸と空の複合的な連携の効率化はどう図られているか。
- ⑥港湾運営の体質改善は進んでいるか。
- ⑦環境対応をどこまで進めていくか。

以上